

1) 1047 名解雇撤回！法大弾圧粉碎！改憲阻止！麻生政権打倒！

6・14全国労働者総決起集会へ5000人の大結集を！

6/14(日)13:00～代々木公園 けやき並木



裁判員制度実施翌日に迫った5月20日、「裁判員制度はいらない！大運動」の呼び掛けした裁判員制度実施阻止の霞が関デモが、650人

の結集で行われました。14日には最高裁・法務省包囲昼休みデモが行われました。

最近の世論調査をみても、「裁判員裁判に参加したくない」が80%にも達し、市民の合意などまったくできていない状況。このまま実施したら、惨憺たる状況が現出するでしょう。デモへの市民の関心は高く、これからの闘いで十分ガタガタに追い込むことができるということを感じたデモでした。

実際に裁判員裁判が始まるのは7月中旬だと報道されています。これから事件ごとに選ばれた候補者に呼び出し状が送られていくというけど、候補者の反発は必至です。さらに弾劾の声を強め、裁判員制度を破産に追い込んでいきましょう。(6/17 第4回千葉県実行委員会開催 詳細は、裏面の集会等参照)

今や資本主義体制は行き詰まり二進も三進もいかないどん詰まり状況になっています。その無理やりの乗り切り策として約20年あまり吹き荒れているのが国鉄分割・民営化を頂点とする新自由主義攻撃による民営化・規制緩和で、労働者の雇用や賃金、権利、社会保障制度や教育、地方自治など「国の形を変える」国家大改造攻撃です。最低賃金時給600円台、年収200万円にも届かない「ワーキングプア」が激増、そして青年労働者の2人に1人が非正規職という状態。派遣や期間工として働く労働者の首切りが嵐のように吹き荒れ、360万人の公務員労働者を一旦全員解雇し選別再雇用するという「究極の民営化」＝道州制攻撃がかけられようとしています。

6月は、国鉄1047名解雇撤回闘争が正念場を迎えます。そして、裁判員制度や「海賊対処法」、北朝鮮のロケット発射に対する「迎撃体制」という実質改憲が進められる中で、

国会では憲法審査会が本格的にスタートしようとしています。これらの攻撃を絶対に許さない6月闘争です。

6・14の5000人の大結集で、危機に陥り選挙を構えている麻生政権に対し、社会の主人公である私たちの職場・地域でのたたかいが麻生政権を打倒し戦争・改憲を止める力だと示していきましょう。

2)緊急カンパをお願いします！そして賛同の更新を！新規賛同拡大を！

皆さん、全国通信5月号の3月会計報告をごらんになりましたか？00000円の赤字です。本部財政は、「待ったなしの危機的状況に突入しました」(「事務局だより」より)。本部の機能が麻痺して全国通信が出なくなったら立ち行かなくなります。この危機を突破するカンパをぜひお願いしたいのです。本来、福祉や教育に回すべき金だと思いますが、その金が今回定額給付金として支給されました。その中から、百万人署名運動存続のためのカンパをお願いします。

さらに新規の賛同拡大をお願いします。カンパは一時しのぎにならざるを得ません。なんといつても賛同人の数が増え、沢山の年会費が集中されなければ、月々の事務所維持費をはじめとして、様々な活動費を安定的に確保することはできません。まわりの方に働きかけて新たに賛同して下さるようお願いして下さい。賛同金は本部と県連絡会で折半します。

また、賛同人の方で更新が滞っている方もおられます。時節柄いろいろ大変なこととは思いますが、この際、ぜひご継続を御願います。5月号通信と一緒に更新のお願いと振込用紙をお送りしてありますのでご利用下さい。

署名を送って下さったり、集会に参加された協力者の皆さんにはぜひともご賛同をお願いします。

●県連絡会用の振込用紙を同封しますので、カンパ、新賛同金などのご送金、よろしく願います。

3)千葉県長選「熊谷俊人氏をお願いします！」

6月14日投票の千葉県長選にあたって、賛同人のKさんから以下のお願いが寄せられました。

「出たい人より出したい人を！」を共通の思いとして4月13日から候補者として推薦できる方を探す作業を始めました。そして5月2日、熊谷俊人氏を「市民の千葉をつくる会」の統一候補として選ぶに至りました。反鶴岡体制で選抜肢のある選挙を提案できたことを喜んでおります。みなさん、どうぞよろしく願い申し上げます。 K

署名数 5/21 現在

▼9条を変えるな！ 19048筆(+347)

▼裁判員制度反対 1074筆(+301)

▼星野さん再審・釈放 256筆

- ▼“もんじゅ”反対 56筆
- ▼児童ポルノ法改悪反対 23筆
- ▼辺野古新基地阻止 76筆

6)街頭宣伝署名(4/25～5/21)

日時	場所	人数	9条	裁判員	星野	ビラ
計	13回	53	347	301	69	4090

● 4/29 9条シール投票結果

守る:105 変える:30 わからない:15 計:150

●大変嬉しいことに、9条変えるな！署名は1万9千の大台に乗りました。また、今月は9条と裁判員制度反対合わせて648筆、ビラ4000枚という大前進を遂げました。

7)6月の予定

連載「沖縄を知る」第2回



沖縄島の北部、国頭村・大宜味村・東村に広がる森「やんばる」を知ると、森の重要さが見えてきます。離島であったがゆえに、4000種以上の独自に変化を遂げた希少生物が、植種が豊富な混生林と共生し、また南部への水源でもあり、薪炭等に切り出されても再生力のある生産の森として、人の生活にも役立ってきました。

やんばるを源とする川は大浦湾にも注ぎ、河口に繁るマングローブの森は、干潟を創り川と海の水を共存させ、多様な生物の生息地ともなっています。

海の森は川からの土砂を堰き止め、海風の害から陸を守ってきました。しかし、やんばるは沖縄返還後から振興開発政策により、必要以上に林道、ダムが建設され、その上伐採ごとに増える補助金付きの林業政策により森は分断され、荒れてきました。やんばるの赤土は川から海へと流出し、海を赤く染め、富栄養の海はオニヒトデを増殖させ、サンゴの海を危機に至らしめています。

また、「グアム移転」の問題は辺野古沖と同様にやんばるにも及び、住民を脅かしてきました。ジャングル戦闘訓練センターの一部返還と引き換えに、3haのヘリパッドを造ろうとしています。東村高江の住民は搬入口で座り込みをして工事を中断させていますが、沖縄防衛施設局は「通行妨害」として法的措置に訴えるという暴挙に出ています。座り込みは、やんばると生活を守るためです。

つづく (A)